

### 市独自の教育（35人学級）について

佐藤 秀行



〔質問〕本市は、平成27年度から市内小中学校全ての学年で35人学級を実施している。

〔答弁〕少人数学級により教師の負担が減る、子どもと向き合う時間が確保されることなどに意味があると思うが、この3年間を振り返っての成果について伺う。

〔答弁〕【教育長】学習面においては、きめの細かな指導ができ、個々の子どもと向き合う時間が多くなり、成果を上げている。

さらに生活指導面での成果が大きく、学級に落ち着きが生じ、安定した学級づくりがなされている。

〔質問〕市で採用している幼稚園、小中学校の学習支援員について、児童・生徒の現状、実態からも、今後さらにその必要性が高くなる

と考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【教育長】特別支援学級の在籍者数は、小中学校で増加している。幼稚園においても、障がいを持った園児が増加している。

このような状況において、学習支援員は非常に活躍しており、特別支援学級や普通学級における指導を要する子どもたちへの支援は必要不可欠と考える。

〔質問〕市独自の教育の一つとして、全ての教育活動において大切

〔答弁〕【教育長】35人学級が本市の教育の大きな特色であり、柱である。本市の教育の基本は、心育て、体づくり、学力の向上であるが、これらを具現化するため多岐にわたって取り組んでいる。

35人学級は、今後、財政上の課題もある中で、市当局と話し合いながら検討していきたい。

◎ドローンスクールの利活用について

〔質問〕小型無人機「ドローン」の研修センターが、福岡八宮地区に開設された。市職員も研修会を受講し、操縦を体験したとのことであるが、市としての今後の利活用等を伺う。

〔答弁〕【市長】利用可能性のある部署の職員が今回参加した。

今後、本事業を展開している協議会と連携を図り、人材育成や防災、観光、地域活性化などについて進めていきたい。

### 就学援助の新入学学用品費の入学前支給について

佐藤 龍彦



〔質問〕就学援助の新入学学用品費の入学前支給について、県内の状況を伺う。

〔答弁〕【教育長】今年4月に県の教育庁で実施した調査結果によると、県内35市町村のうち既に実施しているのが7市町であり、平成30年度入学から実施する方向で検討中は10市町である。

市で見ると、実施しているのが名取市、大崎市、平成30年度入学から実施する方向で検討中は、仙台市（中学校のみ）、石巻市、気仙沼市、角田市、登米市、富谷市の6市である。

また、仙南2市7町で見ると、大河原町、

柴田町、川崎町の3町が実施済みで、平成30年度から実施する方向で検討中は、角田市、蔵王町の2市町である。

〔質問〕本市も入学前支給を実施する考えはないのか伺う。

〔答弁〕【教育長】支給後に転出などの理由で返還金が生じた場合の対応など、クリアしなければいけない課題がある。この課題を解決しながら前向きに検討していきたい。

◎ひきこもりの支援について

〔質問〕本市のひきこもりの現状について、調査等を行なっているのか伺う。

〔答弁〕【保健福祉部長】当事者やご家族にとって、プライバシーなどの問題があるため、実施はしていない。

〔質問〕本市では、ひきこもりの方やそのご家族に対し、どのような支援、取り組みを行なっているのか伺う。

〔答弁〕【保健福祉部長】本市では、保健師が個別の相談に応じながら、当事者やご家族に支援を行なっている。

〔質問〕今後、本市として、ひきこもりの方やそのご家族に対し、どのように向き合っていくのか伺う。

〔答弁〕【市長】ひきこもりの支援は、教育、保健、福祉、医療などの複数の専門機関による多面的な支援が必要であると考えている。

今後は、より専門的な相談ができる宮城県仙南保健福祉事務所、あるいは家族会を開催している宮城県精神保健福祉センターなど関係機関と連携を図って支援していきたい。

◎障害者手帳の交付方法の改善について